校訓　明るく楽しくたくましく「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日　depuis1973

日仏文化学院 パリ日本人学校

令和８年度学校だより　第８号　令和８年１０月５日発行　パリ日本人学校　堀内正樹

パリ日の心臓は…

みなさんが毎朝くぐる玄関前の白い門、教室に差し込む柔らかな光、廊下に響く足音―それらは偶然に出来上がったものではありません。この校舎には、建築家・早間玲子さんが「ここで学ぶ子どもたちの未来を支えたい」という願いを深く、丁寧に刻み込んでいます。早間さんが思い描いたのは、日仏の文化がやわらかく混ざり合い、互いを理解し合える学校でした。その象徴が、みなさんが毎日くぐる白い門です。文書にはこう記されています。

「二つの文化の共生と調和、理解と友情の心を込めて、白い門を設けました。」

日本の“鳥居”を思わせる形でありながら、フランスの街並みに自然に溶け込むように設計されたその門は、文化の違いを越えて人と人がつながる入口として立っています。毎朝その門をくぐるたび、早間さんの願いはそっと息を吹き返しています。

校舎の内部にも、子どもたちへのまなざしが宿っています。低学年教室が扇形なのは、音の響きをやわらげるためであり、幼い頃に“形の違い”を体験することが感性を育てると信じたからです。広い運動場は、子どもが思い切り走り、転び、笑い、また立ち上がる―そんな当たり前の成長を支えるために設けられました。校舎の一つひとつの形に、子どもの未来を思うまなざしが込められています。

早間さんは、校舎を「生き物」と呼びました。建物は完成した瞬間が終わりではなく、そこに集う子どもたちの経験によって育っていく存在だと考えていたからです。早間さんは講演の最後に、こう語っています。

「みなさんが体験し、心に集積されたもの、実はそれがパリ日本人学校の心臓部分です。」

この学校の心臓は、校舎そのものではありません。ここで学び、感じ、悩み、笑い、成長していくみなさん自身です。

みなさんが日々積み重ねる経験が、校舎に鼓動を与えています。白い門をくぐるたび、教室で友だちと語り合うたび、運動場で風を切るたび―学校は少しずつ新しい命を宿していきます。早間さんが込めた願いは、今も校舎の壁や窓の奥で静かに息づいています。みなさんの学びが、この学校の未来を形づくり続けているのです。



【創立記念日校長講話より】

秋空の下でヴェルサイユ遠足

今年も、小学部がヴェルサイユ庭園に遠足に行きました。縦割り班でウォークラリーをしたあとヴェルサイユ庭園の高い木に囲まれ食べるお弁当タイム。毎年本当に贅沢を感じます。その後は班ごとに決めたレクレーションタイムです。鬼ごっこやだるまさんが転んだなどをして楽しみました。５・６年生が宿泊活動で学んだことを活かし、班を上手にまとめていました。



考えの余白

中学部の生徒による青少年主張大会が行われました。事前審査を通った５名が自分の主張を発表しました。タイトルは、「日本と外国の移民問題」「自分の普通」「努力は報われる」「環境に頼らない自分」「考えの余白」「社会のためにできること」でした。最優秀には「考えの余白」が選ばれました。

最優秀賞の要約です。

私たちの考えは、本当に自分だけで生み出しているのでしょうか。私は、これまで出会ってきた人や文化、経験の一つ一つが、今の自分の考えを形づくっているのだと思います。友達との会話では、自分と似た考え方をしていると思っていたのに、話すうちに自分にはなかった視点に気づかされました。人との出会いは、一人では気づけない考えを与えてくれます。

フランスでの生活でも、文化との出会いが新しい気づきをもたらしました。お店に入るときに挨拶をする習慣に触れ、店員と客という関係以上に、一人の人として関わろうとする姿勢を感じました。こうした出会いは、人との関係の捉え方まで広げてくれます。



考えは自分の中にとどまるものではなく、伝え合

うことでさらに深まります。しかし、自分の考えにこだわりすぎると、無意識のうちに相手の考えを遠ざけてしまうこともあります。私は、考えを深めるとは、自分の答えを固めることではなく、相手の考えに触れながら「本当にそうだろうか」と問い直し、まだ知らない考えを受け入れるための“余白”を持つことだと思います。

余白とは、何もない場所ではなく、これから出会う人や文化を受け入れる可能性です。理解できない部分を埋めずに残すからこそ、相手をもっと知りたいと思えるのかもしれません。出会いと考えが重なり合う中で、私たちは少しずつ絆をつくっていくのだと思います。

学びを実体験でさらに深めよう

一年生が Carrefour でお買い物体験をしました。朝からハイテンションの一年生たち。



お小遣いの５ユーロで何を買うかそわそわわくわく。保護者ボランティアさんのご支援で５つのグループに分かれてお買い物開始。ジュースやお菓子を１時間半ほどかけてじっくり選び、レジへ。店員さんにフランス語できちんと挨拶ができました。

今、算数で１０のまとまりの計算をしたりフランス語で新しい会話を覚えたりしていますがこの体験の中でに活かせたでしょうか。子どもたちのつぶやきの中に成長を感じました。

小学部３年生の社会科でも「街のおみせ」の工夫を見つけに Carrefour に出かけました。今日の主な目的は「買うこと」ではなく「工夫」を見つけること。「１個で〇円、２個買うと安くなる」「３つパンを買うともう一本はおまけ」など次々と発見。果物売り場では、値段シールを発券する機械の操作も体験しました。学校に戻ると何かをやり遂げた誇らしげな笑顔を浮かべていました。ボランティアで、ご支援いただいた保護者の皆さまありがとうございました。お陰様で安心して活動できました。



パリ日祭に向けて着々と！

一日中、校舎のどこからかパリ日祭の練習の声や音が聞こえてきます。歌声、リコーダーや鍵盤ハーモニカの音、手拍子、劇の練習の台詞などなど…。また劇で使う大道具や小道具、衣装の制作をみんなで協力して着々と進めています。一生懸命に取り組む姿に思わず拍手を贈りたくなります。本番で思い切り練習の成果を表現してほしいと思います。





少しずつ修理しています

体育館に高い櫓が立てられ、照明器具の点検です。体育館の音響ステージとフロアーの照明等の点検をしました。また、体育館のステージ照明や放送の設備を改良しました。今まではバルコニーに設置していたミキサーなどをフロアと舞台袖に移しています。演技等を見ながら調整できるようになっていきます。



連日のように技術者の方が遅い時間まで作業をしてくださっております。

１０月の主な予定

月	日	曜	活　動
10	1	木	創立記念日　全校朝会
	4	日	第２回英語検定一次
	10	土	パリ日祭
	12	月	振替休日
	14	水	ブルーデル美術館見学（小２）
	16	金	中学部生徒会立会演説会
	28	水	サンカンタン散策（小 1.2）
	29	木	中学部生徒総会